

令和5年度 大社高等学校 学校評価

※生徒・保護者・教職員評価の「評価」欄の基準は肯定的評価の%：A:80%以上 B:65～79% C:50～64% D:50%未満、全体の「総合評価」欄は学校関係者評価委員会の意見等を考慮した総合評価

教育目標	カリキュラムポリシー	担当	生徒・保護者・教職員評価	評価項目	生徒評価			保護者評価			教職員評価			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合評価		
					評価	割合	評価	評価	割合	評価	評価	割合	評価							
					評	%	評	評	%	評	評	%	評							
教育目標 郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材の育成	(1)開かれた学校づくり (2)ICTの有効活用	総務	1	13	積極的な情報発信による、開かれた学校づくりの推進	3.3	92	A	3.1	89	A	3.2	89	A	刊行物は予定していたものが発行できた。	PTA広報委員会などで、情報発信についていろいろな意見をいただいております。次年度にそれらを反映させた改善を継続していく。	「総合的な探究の時間」や「スポーツ総合演習」の発表会では、様々な探究に生き生きと取り組んでいる姿が印象的であった。こういった取り組みを積極的に取り入れてほしい。 ・ボランティア活動など、生徒の顔の見える活動を増やしてほしい。 ・体育科のイベントは参加者にとっても生徒にとっても非常に意義のあるものであった。広報を工夫して、もっと多くの方に知っていただくようにしてほしい。	A		
			3	14	ICTスタッフとの連携	3.5	96	A	3.4	92	A	3.3	100	A	PTA関連の会議のZOOM配信や、オープンスクールの受付などで連携できた。	次年度に向け、ホームページ発信や入学予定者オリエンテーション関係で、よりよいものを構築していく。		A		
		生徒指導	10	ボランティア活動の推進							3.1	88	A	毎月1回～2回程度募集を行い、積極的な参加へつながった。一部の生徒は継続的な参加を呼びかける。	より多くの生徒が継続的なボランティアができるよう、他行事や部活動と調整をしながらの参加を呼びかける。	A				
		体育	21	指導力							3.4	96	A	多くの情報発信機会を設定できた。特に「遊ぼう！キッズフェスタ」など体育科50周年事業は生徒にとってよい機会となった。探究活動を通して視点が拡がり、キャリア意識が向上した生徒が多かった。	情報発信の振り返りを充実し、より効果的な発信ができるようにしたい。今後も積極的なかわりができる機会を提供していく。発信する力の強化がキャリアにつながるよう進路指導との関連を図る。	A				
		奈務	19	寮生のライフスキルの向上							3.2	90	A	より良い寮運営ができるように、寮生同士がチェックし、支え合うスタイルを構築し実践した。かなり成果を感じることはできたが、やはり欠食表の正確な記入が課題であった。この点については各自の自覚である。来年度は食事は外部委託となる。業者と連携してより良いものにしていく。	寮生同士のチェックや奈務部への報告など、細かく見ていけばいくほど問題点が見えてくる。これは進歩であり、このスタイルは更に進めていく必要を強く感じている。一番の問題点となる欠食表の管理と食事の充実については、寮生や業者と常に連携し、より良いものにしていきたい。	A				
	(3)総合的な探究の時間の充実	教育研究	16	7	「総合的な探究の時間」「スポーツ総合演習」の効果的な実施	3.3	90	A	3.1	90	A	2.9	83	A	探究の過程を段階的に経験し、実際に探究活動を実施した。探究の過程の流れを理解することができた。体育科は探究過程のつながりの整合性について理解が深まった。	探究の過程を段階的に理解するとともに、その過程のつながりを意識させていく。データを用いて探究するため、データのとり方や活用法についても取り組んでいく。	A			
		教育研究	16	7	「北九州研修旅行」の効果的な実施	3.1	81	A	3.0	80	A				北九州研修旅行では体調不良者が多く出て、最終日は途中での予定変更があったが、有意義な研修となった。ただ、移動時間がながいことで研修内容が薄くなった。インフルエンザの流行と重なり、発熱者などの対応に大きな負担があった。	北九州から福岡市への移動をなくし北九州市市内での宿泊とし、研修内容の充実を図る。個別研修を取り入れ主体性を伸ばすとともに、夜の研修も充実させる。1学期から細案を練り、傷病対応など、スムーズな研修ができる体制を整える。				
		教育研究	16	7	「総合的な探究の時間」の効果的な実施	3.3	90	A	2.9	78	B				志望理由書作成や小論文模試の実施により、表現する機会を設定することが出来た。内容を充実させるため、先生方にも新聞記事等の協力をいただいた。3年生の探究活動の内容が保護者に伝わりにくい点が改善点である。	表現する機会を設定し、さらに内容を充実させる必要があるため、表現力を育成している教科との取組みと有機的に結合し、場面ごとに表現力をつけることを生徒に意識させる。総探の活動内容を教育研究部と連携し保護者へ発信する。				
		教育研究	18	18	教員研修の充実						3.1				89	A		総合的な探究の時間の研修をはじめ、多くの研修を実施することができた。探究のつながりに関しては先生方の指導の意識も高まってきている。	定期的に研修の場を設定していく。生徒がデータを活用し論理的に課題探究ができるようになるため、外部指導者の協力を得ながら研修を実施していく。	
		教務	1	24	3	主体的に学ぶ態度の育成	3.2	87	A	3.1	93				A	3.0		89	A	・単元テスト、定期試験、模試とそれぞれに学習へ取り組むよい機会とはなっているが、目の前の課題に追われ手が回らなくなっている者もいる。 ・生徒間の学び合いは行われているが、SNS利用での学習外のやりとりが多い。
(1)主体的な学習態度の育成 (2)進路意識の高揚	教務	2	26	3	主体的に学ぶ態度の育成	3.1	85	A	3.0	85	A	2.9	75	B	タブレットを用いた学習も定着してきた。より効果的な学習ができるよう、各教科担当は授業改善に取り組んでいる。	授業改善のために、エラーを恐れずトライする勇気を持つ。	・高校生は非常に忙しい。単元テストなどに向けて計画的に学習できるように、目標・計画を立てて取り組んでいく流れ・プロセスを示してやる必要があるのではないか。			
	進路指導	1	11	5	進路意識の高揚	3.3	91	A	3.1	90	A	3.4	100	A	キャリアによる企業ガイダンス等次第になってきた。まなゼミ、教師塾やボランティア活動への参加者が、声掛けを適切に行うことで増加した。進路希望と教科への興味関心や日常の行動がマッチしていない生徒も散見される。	継続して計画していく。 ・HRでの進路学習、文理選択などの時期を利用して、校外活動や進路調べ等を勧める。 ・資格・職業以外にも教科や社会問題への関心から進路選択を考えさせる。 ・いろいろな学習や活動を、ホームページにアップし、保護者や外部の人にも知ってもらえる。系統や特定の学部(例・医療系学部等)に特化した説明会を開催する。	・まなゼミは開催を重ね、運営もスムーズになってきており、高校生にとっては大きな刺激となり、大学生にとっても大きな学びとなっている。ぜひ今後も続けていただきたい。			
	進路指導	2	11	5	進路意識の高揚	3.2	91	A	3.0	83	A				保護者に対する発信をもう少し早期に行う必要がある。目標を概ね達成できた。模試や補習の実施について保護者の理解をすすめる必要を感じた。	例年12月の学年PTAで進路の説明会を行うが、可能なら9月～10月に行いたい。新課程への完全移行を踏まえ、部活動を継続する生徒の進路指導のあり方(模試・補習等)について、検討を続ける。				
	進路指導	3	12	28	5	進路志望実現への支援	3.3	88	A	2.9	74				B	3.3	97	A	スポーツ概論や専攻実技の機会をとり、専門科目と各専攻種目のつながりについて伝えることができた。スポーツ総合演習を通じて一層実践的な知識となったと思う。また、専攻種目を中心に、競技力向上に向けて努力した。	スポーツ総合演習や総合的な探究の時間との関連を図りながら、充実させたい。専門科目で得た知識はもちろん、スポーツ総合演習などを通して得た探究の力を競技力向上につなげたい。
	体育	20	20	20	20	競技力									3.4	100	A			
教務	4	1	4	1	授業改善	3.2	91	A	3.1	89	A				3.0	82	A	新課程2年目になり、各教科で工夫がみられる。特にICT機器を効果的に使った授業が展開されつつある。	ICT機器の使用が目的化しないよう、真に生徒の学力向上につながるのとはどんなことなのかを各教科で各教科で検討する。	・単元テストに対する生徒負担が軽減するようにしてほしい。 ・効果的なテストの実施方法について検討を重ねてほしい。
(1)授業改善 (2)ICTの活用 (3)適切な学習評価	教務	5	5	5	単元テストの実施							2.7	61	C	公平・公正なテストになるよう配慮しながら、実施方法について柔軟に変更しながら取り組んだ。生徒の意識には差があるように思える。	生徒が主体的に学習に取り組んでいくための単元テストのあり方について検討する必要がある。保護者や生徒に、単元テストの意味をきちんと説明することが必要である。	C			
	教務	6	6	6	適正な評価							3.0	78	B	研修を実施し、学習評価について考える機会を持つことができた。徐々に適正な評価ができていく。	主体性の評価など、基準があいまいな部分について、明確に生徒に提示できるように、引き続き研修等を実施していく。	B			
	(1)挑戦への支援 (2)部活動の推進	進路指導	13	2	4	3年間を見通したキャリア教育・進路指導	3.3	90	A	3.1	89	A	3.0	82	A	3年間を見通した進路の全体計画の作成を行っている。	今後も細かい修正を加えながら継続していく。	・図書館を利用については、単に本を調べるだけでなく、幅広く情報収集の方法や、正しく情報を活用する方法などを指導する必要がある。		
		教育研究	17	6	6	読書・図書館活動の充実	2.9	70	B	2.9	76	B	3.2	92	A	昨年よりも期間を延長した朝読書の実施、図書館だよりやゲーグルクラスルームを活用しての新着図書の実行に努めた。生徒と保護者へのもう一歩の工夫が必要だった。	図書館の利用方法や活用法の発信など、生徒自ら積極的に図書館を利用してもらう工夫する。	・国民スポーツ大会に向けて、本校運動部に対する期待は大きい。競技力強化とともに、機運の盛り上げにも取り組んでほしい。		
		生徒指導	7	8	8	部活動の推進	3.4	91	A	3.1	83	A	3.1	92	A	文化部・運動部ともに様々な場で活躍しているが、部活動の結果やHP上の写真が古いものもあった。	大会での活躍を早めに更新し、部活動の新しい情報(部活動の様子)なども伝えていく。情報発信を増やしていく。校内の掲示版の活用。外部指導者制度の活用。	・荷物の多い高校生に対応できる机・ロッカー等を整備し、整理整頓された環境で落ち着いた学習に取り組めるように取り組んでほしい。		
		生徒指導	8	11	11	いじめをしない、させない体制づくり	3.0	79	B	3.0	86	A	2.9	72	B	「いじめ・学校生活に関するアンケート」については、年度途中でアンケート形式を変更したこともあり、特に2学期の実施が遅くなった。そのため生徒指導部としての対応がやや遅れた。	アンケートをスムーズに実施し、結果については担任や部活動顧問、学年会等と連携して適切に対応していく。	B		
		生徒指導	9	10	10	交通マナーの向上	3.2	87	A	2.9	81	A	3.1	85	A	定期的な交通安全指導を行い、生徒への注意喚起を呼びかけたが、交通マナーが悪いと地域住民からの苦情や、登下校時の交通事故も少なくなかった。	定期的な交通安全指導のほか、生徒に接触事故等が起きた際に改めて、注意喚起をしていく。(事例の紹介をして、注意すべき内容を意識させる)	A		
		生徒指導	1	23	23	人権教育の推進	3.1	84	A	3.1	87	A	2.9	82	A	・個人面談から多くの情報が得られた。担任に対して困りごとをよく相談している。 ・トラブル等があったが、担任間の情報共有や部活動顧問の協力により、早い段階で対応できているケースが多かった。	・アンケートQUをクラス作りを生かす方法を考えたい。	A		
		生徒指導	2	25	25	人権教育の推進	3.1	84	A	3.0	83	A	3.0	88	A	生徒面談を学期ごとに最低2回は行った。生徒の状況を見て、LHRでの人権教育では「適切なコミュニケーションの取り方」を実施するなど、臨機応変に対応できた。	生徒や保護者から得た情報を、教員間できちんと共有し、迅速な対応に努める。	A		
		生徒指導	3	27	27	人権教育の推進	3.4	92	A	2.9	79	B	3.1	91	A	目標を概ね達成できた。人権教育の内容が保護者に伝わりにくい点が改善点である。	保護者へ発信する方策を考える。	A		
		体育	22	22	22	組織力							3.4	97	A	話し合いだけでなくICTを活用したことで、話すことの得意不得意にかかわらず、情報交換や意見共有を行うことができた。各専攻種目の活動やスポーツ総合演習の中で外部の方がかかわることで、さまざまな活動に対する意欲の向上が見られた。	引き続き教員研修を行い、効果的なICT活用を努めたい。より効果的な活動となるよう外部機関等との連携を密にしていきたい。	A		
		保健	14	12	12	相談・対応できる体制の整備	3.2	89	A	3.0	86	A	3.1	87	A	「保健だより」「SC(スクールカウンセラー)だより」の発行、SCによる講演会など、保健室を身近に感じてもらうよう努めた。また、今年度より出雲高校協力のもと定期的な教育相談を開始し必要な生徒教員に活用してもらっている。	各種発行物や連絡(特にスポーツ振興センター関係)が本人保護者に届くようクラスルームやさくらメールなどICTの活用を更に検討したい。また、教員に対してSCや教育相談(出雲高校)など、情報を適切に伝えていきたい。	A		
	総務	2	2	2	危機管理							3.4	97	A	計画通り防災避難訓練が実施できた。次年度から使用する新「危機管理マニュアル」の作成をし、従来対応していなかったアラート等新しい事象に対応したものに改善した。	現行の「危機管理マニュアル」が古くなったので、次年度より新しいものに切り替え、改善を重ねていく。	A			
	保健	15	15	15	清掃活動や安全点検への取り組み							3.3	95	A	生徒・監督の先生方には丁寧に掃除をしていただいた。また、定期的に行っている安全点検についても、掃除監督に確認してもらい事務局にその都度報告した。	トイレの適切な利用についてさらに生徒に指導していきたい。	A			
	学校満足度の向上		15	15	学校への満足度	3.4	93	A	3.4	94	A			A	学校生活に制限がなくなり、計画通りの活動ができるようになった。	さまざまなチャレンジのできる機会の提供に努める。	・学校に対する満足度が高いことは非常に心強い。	A		

令和5年度 大社高等学校 グランドデザイン実現に関わる評価

	育みたい力	担当	番号	評価項目	R 5			R 4			自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合評価
					評価	肯%	評価	評価	肯%	評価				
両科共通	考えて行動する力	教務	1	学力向上のため、授業や家庭学習に積極的に取り組んでいる	2.9	75	B	3.0	77	B	時間割変更を減らした結果、自習時間が増えたことが学習への気持ちをなくさせていることもあるのではないかと。	授業と家庭学習の両方を充実させる工夫が必要。部活動の時間も考慮しなければならない。	*アンケート質問項目を精査したほうが良い。 *評価項目同士のつながりが大きいと思う。1つの項目に注目するより、つながりに着目するべき	B
		生徒指導	2	学園祭や専門委員会などの生徒会活動に積極的に取り組んでいる	3.1	81	A	3.2	84	A	生徒会執行部による集まりを定期的で開催することで、学園祭や生徒総会、球技大会等の生徒会行事を主体的に運営するための支援を行うことができた。	生徒会執行部による集まりを、もっと頻繁に開催できるように教員による支援を継続する。		A
			3	目標を設定し、確実に行動することができる	3.0	76	B	3.1	79	B	進路目標の設定が不十分な生徒もいる。	探究活動や社会人講話、面談等を通して、目標設定を支援していく。		B
	情報を活用する力	進路指導	4	進路目標を決定するため、資料の収集や担任等への相談をしている	2.9	69	B	2.6	56	C	資料はあるが適切な見方や情報検索のノウハウが不足している。	進路情報を得るためのHR活動の進路学習の時間を拡充する	*グループワーク、ディスカッションを増やすなど、アクティブラーニングの取り組みが必要	B
		教育研究	5	図書館を利用して、調べ物ができる	2.3	41	D	1.9	23	D	図書館で調べることができることに肯定的な割合は少ないが向上しており、少しずつ改善していきたい。	図書館ガイダンス以外にも、各教科等で図書館で調べものを増やす場面が増えるように努める。		D
	表現する力	教務 教育研究	6	活動・学習のまとめを発表する機会がある	3.0	78	B				活動や学習のまとめをする機会を各教科科目で設定できている。	活動・学習のまとめを発表する機会を継続して設定することで表現する力を育成していく。	*発言内容に対する根拠や自信を持つようになれば、積極的に発言できるようになる	B
		教育研究	7	人前で自分の意見を発表することが得意である	2.4	42	D	2.5	45	D	総合的な探究の時間で段階的に育成を図っている。1年ではポスター、2年では11会場で発表した。	自分の意見を持ち、それを人前で発表する取り組みをどの教科でも繰り返し実践していく。		D
	関わる・協働する力	生徒指導	8	自分を大切にし、まわりの人にも思いやりを持って接するよう努めている	3.4	96	A	3.6	97	A	概ね肯定的な評価にはなっているが、アンケートでは不適切な言動が特定の生徒によって繰り返されている実態がある。	人権教育LHRや、いじめ・学校生活に関するアンケート、アンケートQ&Aを活用し、生徒の人権意識を高める。		A
			9	立場や役割を超えて協働する機会がある	3.1	83	A	2.9	71	B	コロナによる制限がなくなり、協働する活動を増やすことができた。	総合的な探究の時間を中心として、さらに活動を活性化させる。		A
			10	相手の意見を丁寧に聞くことができる	3.4	95	A	3.5	95	A	話を聞く姿勢は大変よい。	授業等でのグループワークを増やし、対話の場を増やす。		A
	挑戦し続ける力	生徒指導	11	部活動や課外活動に積極的に参加し、自分を高めようとしている	3.4	90	A	3.4	90	A	部活動やボランティア活動では、積極的な取り組みが行われているが、特に部活動では、指導内容に不満を抱えている生徒、保護者も見受けられる。	部活動の指導においては、外部指導者制度を積極的に活用し、生徒のニーズに答えたい。	A	
		進路指導	12	進路目標実現のため、補習や模擬試験等にしっかり取り組んでいる	3.0	71	B	2.9	69	B	模試や補習に対する温度差が大きい。	進路希望調査では大学進学を第1希望にしている生徒が最も多い。模試や補習の必要性と意義をきちんと説明し、意欲的に取り組むよう指導していく。	B	
普通科	想像力		13	先の見通しを持って、計画的に行動できる	2.8	63	C	2.8	65	B	単元テスト、課題、部活動等、目の前の課題に追われて手が回らなくなっている生徒がいた。	カレンダーの利用や学習量の目安の提示など、生徒が見通しを立てやすい与え方を行う。	C	
	創造力	教務	14	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	2.9	69	B	2.8	65	B	学習内容を消化することで精いっぱい、発展的な学習に結び付けるのが難しい。日々追われているような感じがする。	授業改善の取り組みのテーマとして、発展的な学習へとつなげる工夫、又は、教科横断的な学習への取り組みを促す。	B	
			15	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	3.4	94	A	3.5	95	A	思いやりを持って接することができた。	授業等でのグループワークを増やし、対話の場を増やす。	A	
	実践力		16	自分ができることやしたいことが増えた	3.3	90	A	3.2	84	A	社会人講話、高大接続等の取り組みが活発となり、刺激を与えることができた。	キャリア教育スタッフを中心に、取り組みを充実させていく。	A	
		教育研究	17	地域をよくするため、地域の問題に関わりたい	2.9	73	B	2.9	74	B	身近な課題を取り上げ探究活動をする中で、地域との連携が必要な場合に連絡を取っている。	地域の問題に関わりたい生徒が連携をできるように連携先との関係を構築していく。	B	
体育科	競技力	体育	13	授業や部活動を通して、専門種目の競技力が向上した	3.6	96	A	3.7	96	A	スポーツ概論や専攻競技の機会をとらえ、専門科目と各専攻種目のつながりについて伝えることができた。また、スポーツ総合演習を通して一層実践的な知識となったと思う。	スポーツ総合演習や総合的な探究の時間との関連を図りながら、充実させたい。	A	
	指導力	体育	14	学校生活を通して、表現力・統率力が身に付いた	3.4	94	A	3.4	91	A	多くの情報発信機会を設定できた。特に「遊ぼう！キッズフェスタ」など体育科50周年事業は生徒にとつてよい機会となった。	情報発信の振り回りを充実し、より効果的な発信ができるようにしたい。今後も積極的なかわりができる機会を提供していく。	A	
		体育	15	勉強したものを実際に応用している	3.1	79	B	3.1	77	B	基礎学力が不足している者もあり、学んだことと行動をつなげられない生徒もいる。	学習に対する姿勢や方法について、引き続きサポートを行ってきたい。	B	
	組織力	体育	16	クラスの一員として、クラス活動に協力できた	3.5	98	A	3.5	91	A	話し合いだけでなくICTを活用したことで、話すことの得意不得意にかかわらず、情報交換や意見共有を行うことができた。	引き続き教員研修を行い、効果的なICT活用に努めていく。	A	
		体育	17	部活動に積極的に参加して、チームの成績向上のために貢献した	3.6	95	A	3.5	91	A	各専攻種目の活動やスポーツ総合演習の中で外部の方とかわかることで、さまざまな活動に対する意欲の向上が見られた。	より効果的な活動となるように外部機関等との連携を密にしたい。	A	